

2015年度 前期		リフレクションペーパー						
学科名	電気通信工学科							
科目名	電磁気学 I							
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年前期			
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース) / 必修科目(電気エネルギーコース) / 選択必修科目(情報システムコース)							
担当者	江上 典文							
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単純な電荷分布を与えたときの電界、電位差を求めることができる。(A2)</li> <li>・電界、仕事、電位の関係がわかる。(A2)</li> <li>・誘電分極、電束密度がわかる。(A2)</li> <li>・キャパシタの電荷量、電界、エネルギー、電位差、電気容量を求めることができる。(A2)</li> <li>・簡単な直流回路の動作がわかる。(A2)</li> </ul>							
日程と内容	4/10 導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法、電界に関するガウスの法則 4/17 電界中での仕事 4/24 位置エネルギー 5/1 電位差、電位 5/8 等電位面、導体と静電界 5/15 キャパシタと電気容量 5/22 キャパシタの合成 5/29 誘電体とキャパシタ 6/5 電束密度 6/12 静電エネルギー 6/19 静電界のまとめ 6/26 電流、抵抗、直流回路 7/3 電流と仕事 7/10 熱電効果 7/17 総合演習 7/24 定期試験							
成績評価基準	定期試験	70%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	0%		
	演習	30%	計	100%				
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単純な電荷分布を与えたときの電界、電位差を求めることができる → 到達</li> <li>・電界、仕事、電位の関係がわかる → 到達</li> <li>・誘電分極、電束密度がわかる → 到達</li> <li>・キャパシタの電荷量、電界、エネルギー、電位差、電気容量を求めることができる → 到達</li> <li>・簡単な直流回路の動作がわかる → 到達</li> </ul>							
反省点	1限目ということもあり、講義に出席しても寝ている学生が多く、昨年度に比べて合格率が9%低下した(演習、定期試験の難易度は同じ、87%→78%)。							
来年度の計画	学生が寝るということは、講義が単調なためと考えられる。来年度は単調にならない工夫をしたい。							
授業評価アンケートに対するコメント	履修者の28%(21名、昨年より6名増)が、評価理由に、「わかりやすかった」「理解できた」「講義資料がよくできている」と回答。しかし、合格率からみて、理解していない学生も多数いると推測されることから、そのような学生を如何に減らすかが今後の課題。							
履修登録者数	74名	定期試験受験者数	73名	合格者数	57名	合格率	78%	